

# 道 書

No.457

平成29年6月号

三十帖策子(空海筆とみられる部分)

儀及受四種印并説五部中歌讚舞儀  
 者十會名大三昧耶瑜伽於法界宮殿説着  
 賢菩薩等至金剛拳十六大菩薩名之説四種  
 曼荼羅説引入弟子儀受四種印法此中説  
 偈云 愚童覆蓋智 不知此理趣 餘愛而求佛 不悟此愛亦  
 十方五界中 餘愛不可得 以自為等覺 餘愛不説佛  
 者十會名大乘現證瑜伽於阿迦尼吒天説毗盧  
 遮那佛等金剛至毗首羯磨菩薩及以大供養  
 四攝出生同真宗攝瑜伽一、等四種曼荼  
 羅四種印廣説實執理心建立曼荼羅儀則



「皇」  
P9  
太くて  
堂々とし  
ている。

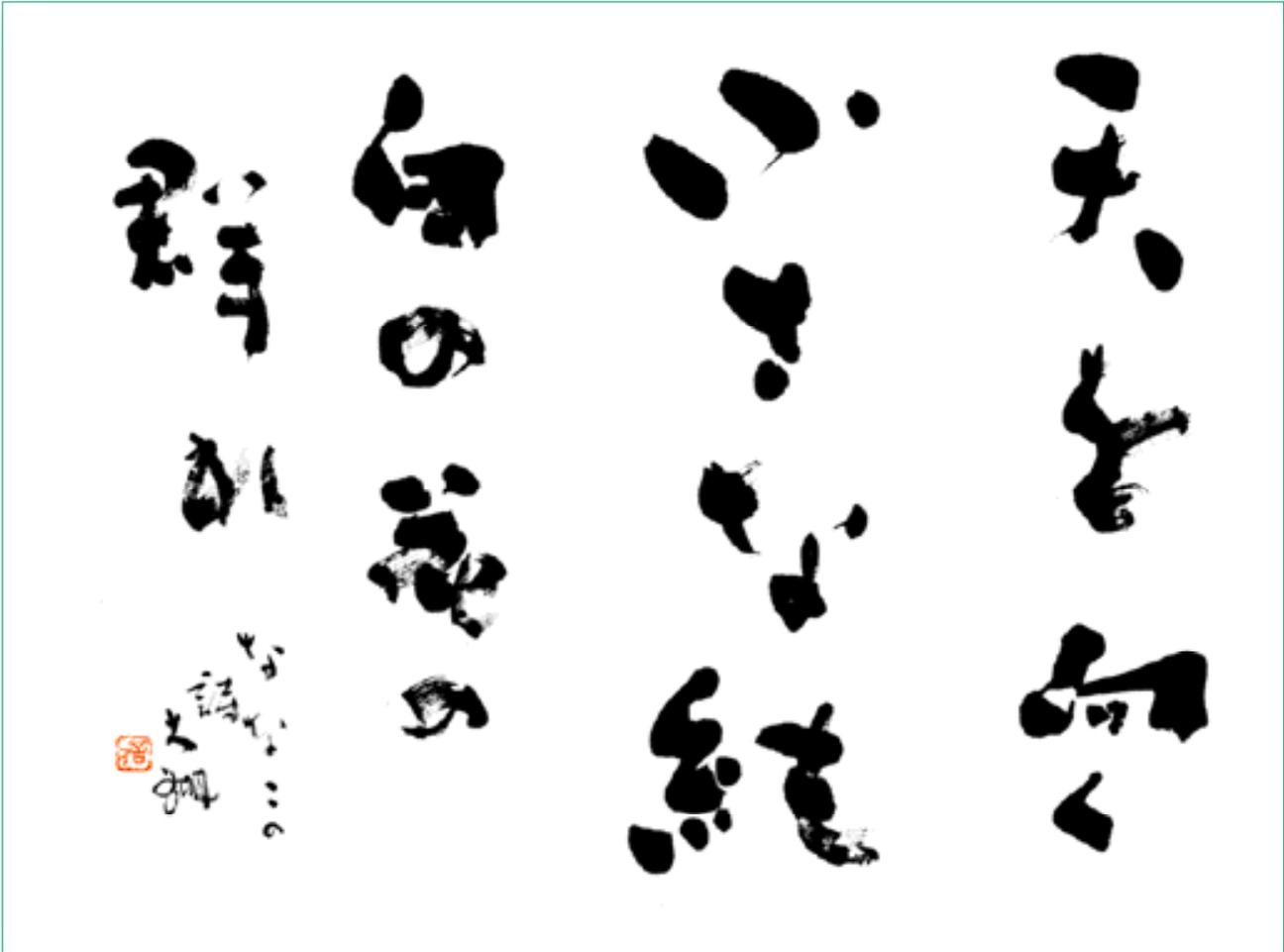


「六」  
P20  
一画目の  
書き方が  
異なるた  
め、それ  
以外の部  
分を参考  
にする。

※P4等の頁数は、二玄社版中国法書選31の九成宮醴泉銘のものです。

維貞觀六年孟夏之月。皇帝避暑乎九成之宮。此則隨之仁壽宮也。冠山抗殿。絶  
維れ貞觀六年孟夏の月、皇帝暑を九成の宮に避く。此れ則ち隨の仁壽宮なり。山に冠して殿を抗くし、「穀を」絶ちて

June



天を向く  
 小さな  
 純白の  
 花の群れ

2017

6

sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	



# 書の臨書・創作・教育・研究を中心に

- 平成29年4月4日～9日
- 大分県立美術館(OPAM)1階・3階
- 主催：臨書創作教育研究協議会



様々な冒険をした20代、30代。紙の汚れが年代を感じさせる



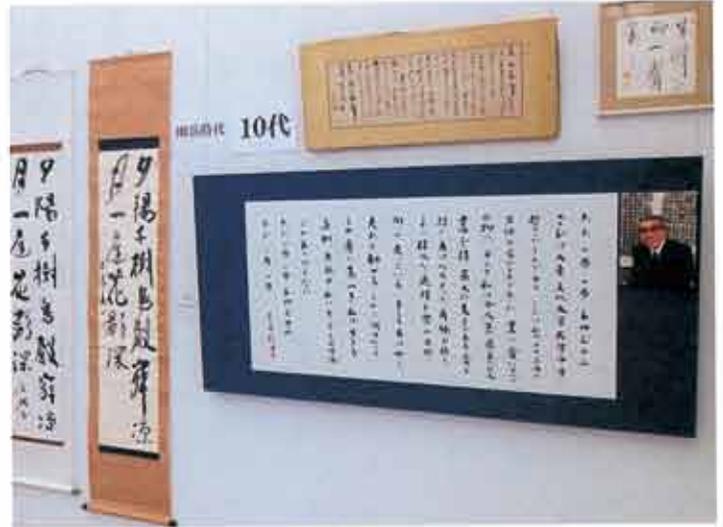
荒金大琳

あらかね・だいりん

昭和22年、大分県別府市に生れる。昭和45年、大東文化大学中国文学科卒業。県内高校勤務を経て、平成11年別府大学教授(現、名誉教授)。現在、日展会友、毎日書道展審査員、創玄書道会評議員、日本詩文書作家協会参与、書学書道史学会諮問委員、大分県書美術振興会理事長、別府市美術協会会長他の要職にある



当時の作品と並んで、それと同じ言葉を書いた真新しい作品が時折見られる。今の荒金大琳が当時の大琳と観作をするという意向



「ただ一步一步あゆむのみ」。入り口に掲げられた、自身の思いを記した書が、まず目に入る。10代の作品から年代を追って作品が展開する

## レポート

### 積み上げられた時間と書と人

— 書を取り巻く大琳の世界

日展、毎日展、創玄書道会等で活躍する荒金大琳氏が、書業50年を機に、地元大分で一大個展を開催した。荒金氏は、書家として作品で勝負するのみならず、「雁塔聖教序」を現地調査し刻跡の謎に関する研究を行うなど研究熱心な学者であり、また高校、大学で教鞭をとり多くの後進を育成してきた教育者としての功績も大きい。

今展では、書家としての仕事を年代順に見せるメイン会場と、研究資料としての珍しい碑拓法帖類や、指導を受けた恩師、現在交友のある書家らの作品、さらに門人らの作品の展示された第二会場の二箇所を使用。多面的に荒金大琳という人物を浮かび上がらせる展観となった。

展覧会タイトルに「仲間たち」とあるように、氏の歩みを辿るだけでなく、多岐にわたる交友の歴史にもスポットが当てられているところが、一番の特徴だろう。

メイン会場の自身の作品陳列作を見る。超大作から、小品まで、四百点もの作品が並ぶ様は、まさに圧巻だ。しかし年代順に並ぶ作品と作品の間に散見するのは、当時の氏の顔写真ではなく、その頃に出会った門人の顔写真。門人たちの歴史も一緒にそこに刻まれているというわけだ。

若書きの作品の多くが当時の表具のまままで今日まで保存されてきたことにも驚かされるが、それと同じ言葉を書いた書き、二作を並べて見せるという趣向が楽しめる。古びシミの出た昔の作品vs真っ白な紙に墨痕淋漓たる書き上げたばかりの作品。二作を見ながら、その時代にしか書けない作品があり、時間をかけなければ手に入らない線もある、そんなことを思わずにはいられなかった。

半世紀を総合的に振り返って見た後、ここまで積み上げられた時間と書と仲間たちが、これから進むであろう次のステップに想いを馳せたい。氏はきつと言うであろう。「今までと同じように一歩ずつ」と。(F)

# 大琳50年の軌跡と仲間たち



「驚異から逃れず守りぬく叡智と強靱なる精神の育成が求められる」(180×720)



「この花一輪あなたの心に」



「珊瑚光る海」



大分県唯一の大会場が、一作家の半生で埋め尽くされた任巻の展示風景

**Information** 予告

中日国交回復45周年記念  
 吳昌碩、王一亭四代及び日中合同展  
 — 師 金子鵬亭との接点を求めて —

会期：9月12日(火)～9月17日(日)  
 (10:00～18:00 但し、最終日は16:00まで)

会場：大分県立美術館 1F展示室A

主催 (中国側) 上海市吳昌碩文化芸術基金会  
 (日本側) 大分県書道学会

運営 (中国側) 上海市吳昌碩記念館  
 (日本側) 大琳書道会

